

Benesse
レポート

高校のキャリア教育 最前線

社会の変化、生徒の気質の変化を受け、高校では、どのようなキャリア教育に取り組んでいるのか？ よりよいキャリア教育、進路指導の方法を模索する高校教員に話を聞いた。

北海道
旭川東高等学校

北海道旭川市。創立113年。生徒数は1学年約280人。普通科のみ（共学）。2015年度大学合格実績（現浪計）/国公立大...192人が合格。私立大・北海道医療・北海道科学・中央・東京理科大学・明治早稲田同志社立命館などに延べ299人が合格。



進路指導部長
松井 恵一

まつい けいいち ●教職歴18年。同校に赴任して13年目。2015年より進路指導部長。「生徒の可能性を信じ、それを引き出す」をモットー。

将来の道をあえて 決めない進路指導へ転換

これまで多くの高校で行われてきた進路指導は、生徒に就きたい職業を決めさせ、そのゴールから最短距離を逆算させる流れでした。具体的には、「この職業に就きたいのであれば、大学はこの学部、学科に進んだほうがよい」とアドバイスするスタイルです。

しかし、本校ではこのような従来の「道を提示する進路指導」から、「考え方を提示する進路指導」への転換をめざしています。極端な言い方をすれば、「将来のことを決める進路指導」から「あえて決めない進路指導」への転換です。実際の指導時には、生徒に自分の将来をイメージさせることもありますが、あえてそれを職業に落とし込まなくてもよいとアド

バイスしています。本校がスタイルを改めた背景には、社会が変化するスピードが以前と比べて速くなっていることがあります。

先が見えづらい世の中になり、生徒自身にも保護者にも、資格取得志向が強くなるようになり、公務員をめざす者も増えています。こうした傾向が一概に悪いというわけではありませんが、変化が激しい時代だからこそ、「今、安定しているように見える道」に進むのは、逆にリスクがあります。また、個人の力を磨いておかなければ社会の変化に対応することも難しくなるでしょう。

「決めない」指導方法だと、不安に感じる生徒も出てくるかもしれませんが、自身の可能性を早い段階で狭くしてしまわないことが大切だと考えています。

探究授業を通して 社会とのつながりを意識

本校では、高校時代に必要なのは生徒の将来のキャリアを見据えて「物事を見る観点、考え方の引き出しを増やすこと」だと考えています。こうした視点を養うために、2年前から進路指導部が中心となって、さまざまな課外活動に取り組みせています。そのひとつが「旭東アカデミア」です。

「旭東アカデミア」は、探究学習を行う課外活動です。1、2年生の希望者を対象として、10ヶ月に週1回のペースで実施しています。前半期は「問題解決パラダイム」「価値創造パラダイム」という2つのパラダイムに沿って、思考訓練のワーク、ミニプレゼンテーションに取り組みます。後半期は、個人、またはチームで

独自にテーマを設けて研究に取り組み、最後に発表を行います。この活動では、現代社会で求められている「課題解決力」と同時に、「価値創造」を重視しています。なぜなら、その2つは表裏一体の関係にあると考えているからです。例えば、ソニーの「ウォークマン」。「屋外で個人が音楽を楽しむ」という新しい価値提案から、それを実現するための技術的な問題を解決していきました。生徒にそうした発想力を身に付けさせるため、テーマを設定する際は、社会とのつながりを意識させ、自分の研究が社会に対してどんな価値を持つかを考えさせています。

外活動も始めました。もとは新聞記事などを読み、自分の考えをまとめるワークだったのですが、それを発展させて、自分のワークシートを持ち寄り、スピーチや意見交換を行うようにしました。自己表現のスキルを磨くと同時に、他者の意見から刺激を受け、さまざまな視点を養うことが目的です。ほかにも、大学生や地域の社会人による講演会を開催し、身近なロールモデルに触れて、生徒の視野を広げる機会を設けています。

気づきをブラッシュアップさせ、自らの可能性を広げる場であってほしいと思います。そもそも旭東アカデミアの発想は、大学で行われているゼミ形式の授業をベースにしています。高校とは異なり、大学にはすばらしい研究設備が備わっていますし、専門の教員の方もたくさんいらっしゃいます。高校では遊びに近い活動にとどまるかもしれませんが、大学であれば、実際に社会に対して新たな価値を提案することができるはずです。

旭東アカデミアの活動が終わった後に、「自分の研究は不完全燃焼だった」と語った生徒がいました。調べていくうちに、自分が考えたものは、すでに世の中にあることに気づいたそうです。この生徒は、自分のテーマを掘り下げて勉強するために、めざす学問分野をより深く学べる大学、学部を探しています。

大学で行われるキャリア教育の中には、エントリシートを書き方など就活のテクニックを教える講座もあると聞きました。必要なことだとは思いますが、「こうしたテクニックを身に付けたいと就職できない」と言っているような学生もいます。これでは、学生の可能性や自信を摘み取ってしまうことにもなりかねないのではないかと

編集部より

今回取り上げた旭川東高校の取り組みは特殊な例ではない。今、高校現場では、誰も明確に語ることはできない10年後、20年後の社会を見据えて、学び方や進路指導を変えつつある。他校にも「なぜ、学ぶのか」「どう生きるのか」を生徒に深く考えさせ、単なる進路指導にとどまらない、学び続ける姿勢を育てるキャリア教育に取り組んでいる高校は多く見られる。大学では、このような教育を受けてきた高校生が進学してきたとき、その期待に応えるような教育が求められるのではないかと



「旭東アカデミア」での発表の様子。1、2年生の希望者が対象。2015年度からスタートし、初年度は25人、2年目は20人の生徒が参加した。



2016年12月からスタートした「小論フェス」での討論の様子。初回は1、2年生40人以上が参加。学年やクラスの壁を越えて議論を重ねる。